

産業遺産紹介 IH-CSIH-043

なが おがわ

なか いづがわ

長尾川水路橋・中津川水路橋

所在地：静岡県榛原郡中川根町上長尾字中根（長尾川水路橋）、中川根町大字中津川（中津川水路橋）

長尾川水路橋と中津川水路橋は、1944年（昭和19）竣工の久野脇発電所（川根本町久野脇、最大出力32,000kW）の導水路の水路橋である。久野脇発電所の取水口は、大井川発電所の放水口のところの崎平にあり、そこから榛原川堰堤、境川ダムを経て発電所に至る水路の長さは約12.5kmである。水路はほとんど隧道であるが、長尾川と中津川を渡るところにこの水路橋が掛けられた。長尾川水路橋は橋長71.5m、中津川水路橋は橋長69m、ともに3連のコンクリートアーチ橋で、高さ7m、幅7.4mの矩形コンクリート水路が一体化した構造をしている。



〔写真1〕長尾川水路橋 （2013/05/04 石田正治撮影）



〔写真2〕中津川水路橋 （2013/05/04 柘植芳之撮影）

発電所と水路の施工は、間組（現安藤ハザマ）・大倉組（現大成建設）で、1940年に着工、1944年に竣工している。戦時中で物資、労働力不足でありながら、現在もコンクリート表面の破損や漏水がなく、その技術と施工の苦労が偲ばれる水路橋である。事業主は日本発送電（株）であったが、戦後に中部電力（株）の管理する施設となっている。

（石田正治）

中部産遺研会報 第65号 目次

1. 産業遺産紹介／石田正治	1
2. 海外の海事博物館めぐり（10）／杉本漢三	2
3. パネル展『東海の綿織物・毛織物と産業遺産』の概要／浅野伸一	4
4. 第143回定例研究会の概要／浅野伸一	6
5. 追悼 宗美修さん／石田正治	8
6. 追悼 中住健二郎先生／山元章人	9
7. シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第34回案内	10
8. 第144回、第145回定例研究会案内	11
9. 事務局より、編集後記、原稿募集	12

海外の海事博物館めぐり(10)

ビショップ博物館と太平洋諸島の文化 The Bishop Museum and Cultural Area of the Pacific

杉本漢三／SUGIMOTO, Kanzo

キーワード；ビショップ博物館、太平洋文化、ハワイ、アライ、ポリネシア、マルケサス

1. はじめに

太平洋の中心部のポリネシア諸島の頂点にあるのがハワイ島である。海事博物館はホノルルのアロハタワー横のピアに「マリタイム・センター」として設立してあるが、これは「ビショップ博物館」の兄弟館でもある。その気品高き「ビショップ博物館」は、市内からタクシーでわずかな距離の山の手にあり、大学のキャンパスを思わせるほど広大で、プラネタリウムまで聳えるあるスケールである。

ここは、1889年に設立され、王家ゆかりの品や美術工芸品、昆虫・植物標本など2400万点も収蔵され



〔写真1〕ビショップ博物館本館（ホノルル） 2009/03/04



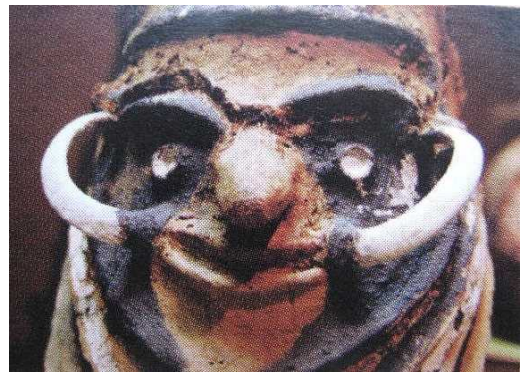
〔写真2〕広大な博物館内でのスナップ 2009/03/04

ており、ハワイと太平洋諸島が学べるので、小・中学生などのクラス単位での見学も目に射る。

2. ビショップ博物館内の案内

まず、入館するなりプリンセス・カヒリルームで、かつてのアライ（ハワイ先住民の王族）を象徴する鳥の羽のカヒリのほか、ハワイ王族の写真や所持品が展示してある。

やはりメインは、ポリネシアホールであろう。ポリネシア、ミクロネシア、メラネシアにまたがる太平洋諸島の文化と人々を紹介している。特に、ハワイ島人の起源であるポリネシアの興味深い儀式や宗教、衣服、踊りなどの展示が面白い。



〔写真3〕二階のポリネシアルームに展示のハワイ先住民の儀式、宗教、日常生活具などの展示、



【写真1】鯨骨のペンダント

3階は、ハワイアンギャラリーとして、19世紀ビクトリア様式のホールとなっており、アリー族(貴族階級)から授けられた文化財やこの博物館が長年にわたって収集したハワイ文化に関する貴重な品々が展示してある。

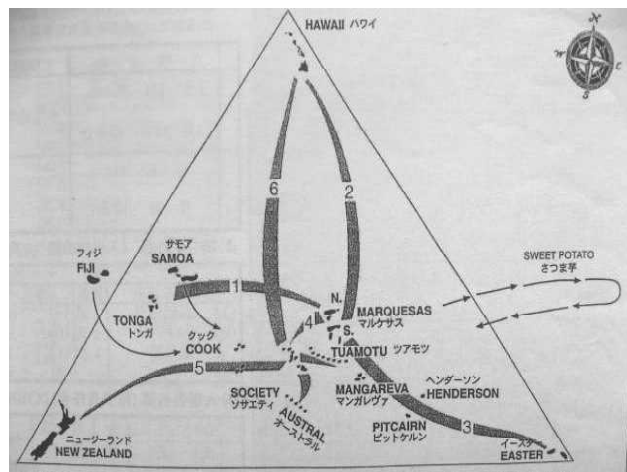
また、この博物館の特徴としてサイエンス・アドベンチャー・センターが広さ1765平方メートルの敷地を利用して、参加型の展示方法としている。

コンピュータ対話式プログラムを駆使した展示法により、ハワイの自然環境を説明しており、見学者は、世界最先端をゆくハワイの火山学/海洋学/生物学的多様性分野などの研究の一端を、実体験を通して学ぶことができる。高校生以上の参加者が多かった。

3. ハワイの海洋文化

ハワイ人のルーツについて、長年ビショップ博物館の研究員をつとめ、その後、エモリー人類学研究所員の篠遠喜彦氏から現地ですら、直接聴取した。

いろいろな説があるが、蛸(octopus)のように頭の部分がハワイで、そこから八本の島々に派生したという説もあるそうだ。さらに、サツマイモの流通か



【写真4】ポリネシア文化の人の流れ経路
(Bishopで篠藤氏提供)

ら南米からとの説もある。しかし、篠遠氏の主張は、マルケサス島とソサエティ島の二つの波で伝わってきたという。

篠遠氏は、ビショップ博物館で考古学上、物質変化からポリネシア人の移動履歴を究明するため、ハワイ最南端の「サウスポイント」で遺跡の発掘調査に携わったが、発見というものには10年に一度あるかないかだそうだ。ポリネシアは土器の遺跡は無く、骨の「釣り針」が3000点は集めた。その種類は、単式、組み合わせ式、複合式などであるが、材質は人骨(大腿部)が多い。タヒチの釣り針はハワイと同形であった。この地区では、弓矢はゲームに使うだけで、武器としては使わない。

マルケサス島(Marquesas)の発掘調査で断層を歴史時代別に5ランクに分類して、その時代ごとを整理したが、7.5mのカヌーも発掘でき、それを削り貫いた「チヨナ」も原型を留めるほどで発掘できた。しかし、フランス本国の博物館で、真空保存加工に失敗して消滅してしまった。

カヌーの舵(ステアリング)をとる櫂も見つかりダブルカヌーの想像図も完成することができた。

4. あとがき

世界中に多くの博物館があるが、参加型の展示方法はあまり例がない。日本のような島国では広大な土地の確保すら困難だが、それ以前に国民の博物館文化が薄く、上野に科学博物館はあるが、国内にはまともな海事博物館は無いようだ。

自治体や大企業が運用する各種博物館が首都圏中心に多いが、ビショップ博物館のように品位と余裕のある博物館はまず無いとつくづく感じる。

ビショップ博物館は、一日中居ても飽きがこなく、心が休まる場所である。ハワイに観光旅行する日本人は多いが、ここを訪れる人は、極々わずかであると聞く。

この後、ワイキキビーチで「陸軍戦争館」を見学して、その足で「ダイヤモンドヘッド」に登ってホノルルの町を一望してきた。 アローファ!

【参考資料など】

1. ビショップ博物館 www.bishopmuseum.org/
2. ハワイ・マリタイムセンター(海事博物館)
www.bishopmuseum.jp/maritime.php
3. 高山純『南太平洋の民族誌』雄山閣出版、1991
4. 小林泉『ミクロネシアの小さな国々』中公新書
657、1982

2016年度パネル展 「東海の綿織物・手織物と産業遺産」 講演会とパネル展の概要

浅野伸一／ASANO, Shinichi

日時：2016年11月22日(火)～12月04日(日)

会場：名古屋都市センター

2016(平成28)年度パネル展は、「東海の綿織物・毛織物と産業遺産」をテーマに、11月22日(火)から12月4日(日)までの13日間、公益財団法人名古屋まちづくり公社・名古屋都市センターとの共催、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会の後援を得て、名古屋都市センター11階まちづくり広場・企画展示コーナーで開催した。期間中の入場者数は2,255人(173人/日)であった。11月27日にはテーマに関連して、特別講演「片岡春吉と尾西毛織物史」と基調講演「東海の紡織技術史とその遺産」のほか、「棉から綿糸まで」の実演と「製糸のあけぼの一綿打ち・諏訪小倉織の姿をもとめて」・「繊維産業の繁栄を偲ぶ産業遺産 一宮市の鋸屋根工場群」と2件の報告を行なった。参加者は70名であった。

【パネル展概要】

東海地方の綿織物業・毛織物業をテーマに、その歴史と発展に尽くした人々、関係する産業遺産を、次の4項目に分け、約40枚のパネルで紹介した。

① **東海の紡績産業史** 東海の紡績技術史ー綿紡績技術、動力織機の国産化、毛紡績・毛織物技術の国産化、鹿児島紡績所、千住製絨所などに関するパネル(10点)

② **綿紡績・綿織物** 東海地方の綿花栽培、尾西の縞木綿、臥雲辰致と綿紡機、官営愛知紡績所、愛知物産組、知多綿織物など名古屋・知多の綿織物の紹介(15点)

③ **毛紡績・毛織物** セル・モスリンの由来と用途、梳毛糸と紡毛糸、尾西織物業の発展、「毛織物の父」片岡春吉の紹介等(7点)

④ **実業教育と産業遺産** 一宮市を中心とする織物工場と鋸屋根工場群、愛知県の工業高校紡織科の歴史、三河ガラ紡の遺産などの紹介(6点)

【講演会の概要】

日時：2016年11月22日(日) 13:00～16:00

会場：名古屋都市センター

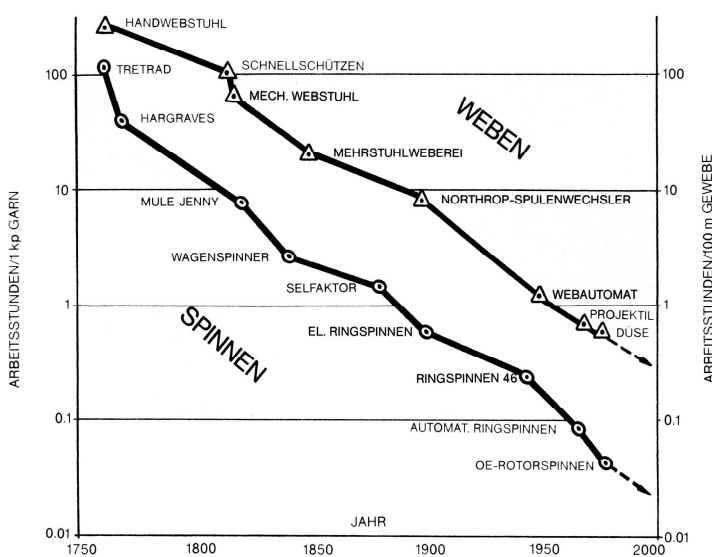
司会：寺沢安正、記録：浅野伸一



2016年度パネル展の様子
手前は大橋公雄会員の育てた綿の木

基調講演：「東海の紡織技術史とその遺産」石田正治(会員)

東海地域はわが国屈指の繊維製品の生産地であった。綿と羊毛を原料とする紡績と製織技術に関する歴史およびその産業遺産について紹介された。紡績と織布技術とが相互に影響しあいながら発達し英国の産業革命を推し進めたこと、わが国の綿紡績技術は、鹿児島紡績所の英国機導入に始まり、大正13年豊田佐吉のG型自動織機の発明によって確立したこと、さらにわが国の独創技術として臥雲辰致の綿紡機と三河のガラ紡機、羊毛紡績では千住製絨所の羊毛紡績技術、東京モスリンなどの梳毛紡績技術などが紹介された。



【図1】織布技術と紡績技術の発達

WEBENは織布、SPINNENは紡績で、図の左の縦軸は、1キロポンドの糸を紡ぐ速度を示し、右の縦軸は100mの布を織る速度を示す。(出典：A. Bohnsack『Spinnen und Weben』)

特別講演：「片岡春吉と尾西織物史」 浅井厚視氏（津島市立南小学校校長）

尾西地方は、従来の尾張木綿（縞木綿）から明治後期に毛織物生産へと転換し、「毛織物王国」への発達を遂げた。そこには数多くの先達者の努力があった。



講演中の浅井厚視氏

毛織物生産の中心となったのは片岡春吉である。片岡春吉は全国の機業地を廻って、毛織物生産が有望であると確信し、明治31年、片岡毛織物工場を創業。日露戦役の際、軍洋服地を生産して発展した。明治42年、織布から染色整理までの毛織物生産体制の確立し、分工場は20を超え、近隣へ指導・援助を行ない、「毛織物の父」と言われた。明治43年には実業功労者として豊田佐吉と共に大本営に招かれた。

柴田才一郎は、東京職工学校（東京高等工業）卒業。東京高等工業教授となり、明治39年、名古屋高等工業の開学に伴い着任（機械科長兼任）。津島・一宮・笠松を度々訪れ、尾西地方の毛織物工場を指導した。江口弥一郎は愛知工業学校染織科の一期生、柴田才一郎の教え子である。機械器具商『江口商店』を開店し、名古屋織物整理・愛知染色整理・内外紡績の社長を務めた。墨宇吉は、明治35年、尾張・美濃織物の染色整理工場を設け、尾張地方初の機械による毛織物整理工場となった。明治44年、「墨合名会社」を設立した。

報告：「棉から綿糸まで（実演）」 野村千春（会員）

綿から綿糸を作るまでの手紡ぎの実演と解説が行



綿繰り、綿打ち、手紡ぎの実演、野村千春会員

なわれた。綿糸は綿花の短い繊維を紡ぐことで作られる。まず綿から摘んだ綿花を実と綿毛に分ける、次いで、分離した綿の繊維を綿繰でほぐし、繊維の方向を整える。綿打弓でのし、菜箸で筒状に巻きよりこを作る、最後に、糸車で綿を紡いで糸にする工程を実演した。会場では糸作りを初めて見る人も多く、関心を集めた。

報告：「綿糸のあけぼの一綿打ち・諏訪小倉織の姿を求めて」 林久美子（岡谷蚕糸博物館学芸員・会員）



講演中の林久美子会員

諏訪製糸業はその前段階として綿打・小倉織産業の存在をぬきにして語ることができない。諏訪地方では、江戸時代から春夏は蚕飼・生糸づくり、秋冬は綿打・小倉織業を行って、「糸師」と呼ばれる綿問屋が糸や製品を

都市へ出していた。幕末の横浜開港以降、生糸は外国貿易品となったが、糸師たちはそれまでの綿打・小倉織・蚕飼・糸取りから、生糸づくりを行う製糸業専業へと移行し、横浜へ生糸販売の道を切り拓いた。「原材料を移入して製品にして出す」という「加工業」としての産業体制は、綿打・小倉織、製糸業、精密業、超精密業へと、現在まで連綿と続いている。

報告：「繊維産業の繁栄を偲ばせる産業遺産 一宮市の鋸屋根工場群」 岩井章真（会員）

「鋸屋根」はたくさんの外光を内部に取り込める構造の建物である。三角形が連続するので「鋸屋根」と呼ばれる。採光面は、太陽光が直接入らないように、北向きが大半である。

愛知県内の鋸屋根工場は、一宮市及び周辺市町で



一宮市の北窓の鋸屋根工場（撮影：岩井章真）

2000棟以上で最も多く、蒲郡市では350棟、東浦町では51棟が現存している。いずれも繊維産業が盛んな地域であった。尾西地方では、明治後期から多くの先達が毛織物に着目し、毛織物の製織に取り組み、大正期に発展、昭和に入ってから洋服地への転換を経つつ、国内最大の毛織物産地となった。織布工場では大正5年頃から動力織機や動力を伝える伝達機構が導入され、これを機に、鋸屋根工場へと建て替えられた。

【アンケートからの主な意見、感想】

(1) 近代繊維産業の草創期から幅広く展示され、背景・歴史などが丁寧なパネルに仕上がっていた。断片的に知っていたことが繋がりを持って知ることができた。

(2) 講演会では、地域を愛する人の調査に心が感じられた。歴史と今、将来の街づくりに生かしたい。綿繰りの実演も良かった。子供の頃尾張西部で育ち、自宅も鋸屋根で毛織物の修整業をしていたので懐かしかった。

(3) パワーポイントで写真が多く示され、良く分かった。過去の報告なども読んでみたい。会員の皆さんの会に対する抱負も伺いたい。

第143回公開定例研究会の概要

浅野伸一／ASANO, Shinichi

日時：2016年11月22日(日) 16:00～17:00

会場：名古屋都市センター

司会：寺沢安正 記録：浅野伸一

1. 研究報告、調査報告

[143-11-01] 報告「産業遺産の見方・調べ方：近世・近代古文書の読み方」／水野信太郎

引き続いて、第143回公開定例研究会が開催され、水野信太郎会員から産業遺産の見方・調べ方として、「近世・近代の古文書の読み方」について、産業遺産研究での古文書トレーニングの必要と解説が行なわれた。

2. その他の諸報告、保存問題

なし

3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

[143-31-01] 研究誌『産業遺産研究第24号』について／浅野伸一

[143-31-02] 会報ニュースレター 電子メール版の原稿募集／橋本英樹

4. シンポジウム・パネル展

[143-41-01] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第35回／八田健一郎

2017. 02. 26 トヨタ産業技術記念館 ホールA

[143-41-02] 2016年度パネル展と講演会「東海の綿織物・毛織物と産業遺産」

・第12回2016年度パネル展 11月22日(火)～12月4日(日) 名古屋市都市センター

・パネル展講演会2016/11/27(日) 13:00～ 名古屋市都市センター

5. 見学会、その他の催し物

[143-51-01] 第144回定例研究会 2017/01/29(日) 豊田市産業とくらしと発見館／(事務局)

※ 頁、定例研究会案内参照。

[143-51-02] 第145回定例研究会/見学会 2017/03/26(日)／水野信太郎

午後13時45分より(荒天中止)

集合場所：名鉄西尾線「北安城口」駅(新安城駅で、名鉄名古屋本線から西尾線の普通電車に乗換えが必要)

行程：13:40 名鉄「北安城」集合

13:45 北安城駅～徒歩(15分足らず)

新美先生の下宿に到着

14:00～14:30(およそ30分間)、下宿を見学

14:30～15:00(およそ30分間)、新田地区を見学(安城市新田町出郷：しんでんちょう・でござ37番地付近には、そらく大正後期～昭和初期の長屋門を構える家屋が見られます)

タイミングが良ければ、新美先生の下宿で15:00の時報を聞きます。15:05新田町～徒歩(20分ほど)、名鉄「西尾線」高架橋 ならびに「北明治稲荷社」を見学しながらJR安城駅前付近に到着。

15:30～16:20 新美先生を前面に押し出す安城市のまちづくり見学。南吉館(まちづくり機能)、新美先生と生徒の像、シャッター絵画を見学。

16:20～ 徒歩(10分程度)旧安城高等女学校に到着 16:30～17:20もとの高女は現在、安城市立桜町小学校：南吉の文学碑。

17:30～ 皆さんの御希望があれば、安城駅前懇親会

[143-51-03] 第16回「ものづくり文化再発見!ウォーキング 2016年秋」／柳田哲雄

豊橋の地場産業と”食と農”のものづくりをめぐ

るコース(約10km)を予定。

日時 2016年12月03日(土) 集合10:00

コースの概要: JR・名鉄 豊橋駅前(スタート)⇒水上ビル⇒完和萬染⇒杉本屋製菓⇒東三河食糧⇒人形処たちばな⇒秋葉山常夜燈⇒龍拈寺⇒豊橋市公会堂⇒豊橋ハリストス正教会⇒吉田城⇒吉田神社⇒大正軒⇒岩井芳文堂筆店⇒ヤマサちくわ魚町本店⇒こども未来館ここにこ(ゴール)

途中で、豊橋筆・人形制作の見学や手筒花火を観ることができる。

参加費: 500円(小・中学生は無料)

[143-51-04] 2017/07/23「第4回さんぎ大学」

トヨタ産業技術記念館 ホールA

[143-51-05] 産業考古学会2017年度全国大会／事務局

※中部産業遺産研究会は共催団体となることを了承。(事務局)

日時: 2017/10/27(金)～29(日)

場所: トヨタ産業技術記念館

内容: 27日午後プレ見学会

28日大会、トヨタ産業技術記念館

29日見学会

実行委員長: 成田年秀(トヨタ産業技術記念館 副館長)

[143-51-06]「定例研究会で見方調べ方や調査研究報告予定及び見学希望の申し出のお願い」／企画幹事

6. 文献紹介、資料紹介

[143-61-01]「ニューズレター」2016. 7. 15 No. 0119

東京産業考古学会／(事務局)

[143-62-01] 産業考古学会創立40周年記念「近代化遺産」シリーズ講演会

・第3回2016/11/12(土) 岡山県図書館多目的ホール、日本とヨーロッパの歴史的造船景観に見る技術文化 若村国夫

・第4回2017/01/14(土) 岡山県図書館多目的ホール、鉱業と産業景観 清水憲一

・第5回2017/03/11(土) 岡山県図書館多目的ホール、基調講演 日本の近代水道遺産 岡田昌彰、シンポジウム/近代化遺産とその景観

[143-62-02] 産業考古学会創立40周年企画「スウェーデンの鉄の産業遺産を巡る旅」

2017/08/10-23(予定)、予算35万～45万円、参加申し込み締め切り: 2016/11全国大会まで

[143-63-01]「ニューズレターNo. 0121」東京産業考古学会2016. 11. 15 / (事務局)

7. 出版広報事業

[143-71-01] インターネット

<http://csih.sakura.ne.jp/> 左記です。一度ご覧下さい。

8. 委員会、役員会、研究分科会

[143-81-01] 幹事会・役員会等／(事務局)

2016年度(平成28年度)

・第1回幹事会2016/05/24(メール) 総会・定例研究会のレジメ、会員の移動、会員名簿

・第2回幹事会2016/07/21(メール) 2017/03定例会・見学会の日程変更

・第3回幹事会2016/11/13(メール) 2017年10月産業考古学会名古屋大会 研究会が共催の件

[143-81-02] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」

第35回 実行委員会

・第1回 2016/03/20(日) 10:00～

緑生涯学習センター 会議室

・第2回 2016/05/29(日) 10:00～

大同大学 滝春校舎本館14階 交流会室

・第3回 2016/07/24(日) 10:00～

トヨタ産業技術記念館

[143-81-04] 第12回2016年度パネル展「東海の綿織物・毛織物と産業遺産」

・第4回 2016/08/07(日) 14:00～16:30

名古屋都市センター13F

・第5回 2016/10/09(日) 14:00～16:30

名古屋都市センター13F

・第6回 2016/11/06(日) 14:00～16:30

名古屋都市センター13 パネル最終確認

[143-81-05] 研究誌『産業遺産研究第23号』編集委員会

・必要に応じて電子メールや電話にて開催

9. 総務・事務局関係

[143-91-01] 研究会年会費／会計幹事

2016年度年会費4千円、振り込み先は、下記までお願いします。

[銀行口座] 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店

普通預金

口座名: 中部産業遺産研究会

口座番号: 1531266

[143-91-02] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他

・第144回定例研究会 2017/01/29(日)

・第145回定例研究会/見学会 2017/03/26(日)

追悼 宗美 修さん

石田正治 / ISHIDA, Shoji

昨年（2016）11月、宗美修さんの奥様の玉美様より、修さんが10月20日に亡くなられたとのお知らせのお葉書をいただきました。

それ以前の4月に奥様より、「（前立腺）がんの転移で下半身まひの状態



在りし日の宗美修さん

で入院介護中ですので、研究会には長くお世話になりましたが、退会します。主人の病状は安定しています。」との連絡を受けていました。お手紙をいただいて、一度病院にお見舞いに行かなければと思いつつ、忙しにかまけていました。病魔の進行の早さに驚くとともに、またお見舞いに行かなかったことが大変悔やまれます。

宗美さんは、愛知産遺研時代からの会員ですが、いつから会員になられたのかとふと思い、当時の会員名簿を見てみました。すると、すでに1987年（昭和62）の名簿にお名前がありました。

宗美さんは、三重県伊勢市の生まれで、高校まで鳥羽市で住んでいましたが父が亡くなられて、母方の実家のある広島県呉市で大学時代を過ごしていました。

大学は愛媛大学で、卒業後に神鋼電機（現シンフォニアテクノロジー(株)）に入社、最初の勤務地は、ゆかりの鳥羽工場（モーションシステム工場）でした。その後、各地に異動になりましたが、最終の勤務地が豊橋工場（豊橋製作所、豊橋市弥生町）でした。研究会でも宗美さんの案内で、この神鋼電機・豊橋工場を見学しています。

宗美さんは、入会したときから大変熱心な会員でした。定例研究会だけでなく、見学会やシンポジウム、夏の産業遺産見学旅行など、常にそのお姿がありました。お酒も好きで、研究会の懇親会

には必ず参加されていました。

宗美さんの研究関心は、造船と船の技術史でした。「ふるさとの鳥羽市と呉市は、いずれも港と造船所があり、船に関わりのある町ですよ、毎日のように船を見ていました。」と船の歴史について折に触れて語っていたことが想いだされます。宗美さんの関心は船だけでなく鉄道関係にも関心があり、文章にして遺されたものには、「モノレールカーとSL」『愛知の産業遺産を歩く』（愛知県産業情報センター）、「モノレールカーと流線型電車」『ものづくり再発見』の2編があります。このモノレールカーとSLについては、いっしょに日本車輛の豊川製作所に取材に行ったことが想いだされます。



宗美さんといっしょに取材した、日本車輛・豊川製作所の正門前に保存されているモノレールカー（取材:1996/02/14）

ところで私は、宗美さんには特別な思いがあります。宗美さんは豊橋に来て、終の住処として豊橋市大岩町（JR二川駅のあたり）に新しく家を建てられました。会社にも比較的近い場所でもあったので、この地を選ばれたようです。また、私の妻の実家も大岩町でした。妻の実家は二川駅前にありましたが、義母は他界し今はもうありません。ある年、正月休みに一家で実家に遊びに行きました時に、電話をして宗美さんの新築のお宅を訪ねました。

実家からは歩いて5分ぐらいの距離であったように思います。宗美さんのお宅では、お屠蘇に奥様手料理のめずらしい広島料理をごちそうになりました。酒杯を交わしながら、鳥羽市での会社のこと、呉市での思い出など、熱く語っておられたことが想いだされます。

永遠のお別れとなってしまいましたが、今はご冥福を祈るばかりです。合掌。

追悼 中住健二郎 先生

山元章人／YAMAMOTO, Akito

この1月7日(土)午前2時57分に中住健二郎先生はご逝去されました。昨年血液の癌を発症され、闘病生活を送っておられました。ご自分の病状をしっかり理解し、受け止めて治療のために積極的に努力されました。一時は良くなられて会食等もご出席いただきましたが、10月に再発、今度は脳に転移しているとのことでした。12月に入ると年を越せるかどうかの重篤な状態になりましたが、奇跡的にも年を越され、病床で必死で頑張っておられました。しかし、肺炎を併発されて旅立たれました。享年88歳のご生涯でした。

中住先生の生き様は私にとって模範となるものです。決して愚痴らず、目の前の課題に対しては真摯に向き合い、真正面から対峙されていました。私利私欲に走らず、常に周りの人のことを考えながら行動されていました。自身の命に対しても同様で、どんな困難な状況でも希望をもっておられました。文句を言わず、周りの人たちには感謝の念に満ちていました。そんな生き様でした。毎日のようにお見舞いに行きましたが、その頑張られているお姿を見るだけで、私は勇気が湧いてきたのを思い出します。中住先生、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

中住先生と知り合ったのは、私が大同高校に奉職した1980年(昭和55)からです。当時、学校改革を目指すグループの一員であった中住先生にもご尽力いただき私は採用されました。名古屋工業大学の先輩・後輩の関係でもあり、様々な面で助けていただきました。特に、技術教育研究会や愛知の産業遺産・遺物調査保存研究会(現中部産業遺産研究会)への入会や活動では先生の手ほどきなしにはうまくいかなかったと思います。そしてある日、中住先生から「おい、飛島村に古い排水機があり、一度見に行ってみ



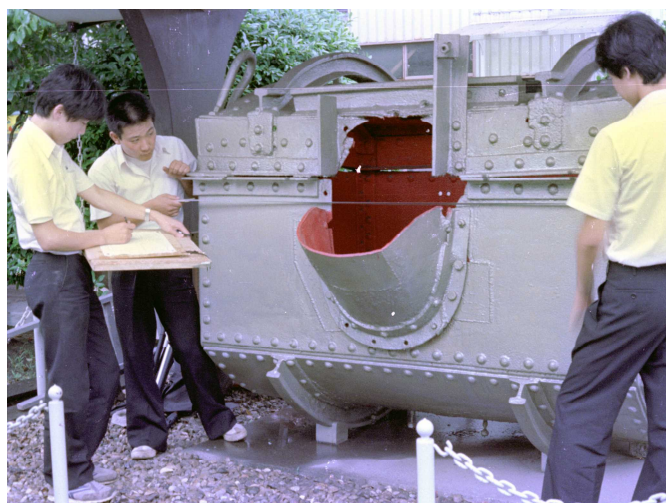
在りし日の中住健二郎先生
(シンポジウム「中部の電力のあゆみ」での開会挨拶、2003/10)

ないか。機械だし君の興味関心も高いだろう。」と誘われ、二人で飛島村に調査に行きました。それがその後の一大事業「大宝排水機場の調査研究と保存」へのきっかけになりました。

とにかく中住先生は私の恩人であります。人生の中では仲人をしていただき、大雪の中(吹雪と雷)富山での結納の儀式、草津・大津での結婚式など大変お世話になりました。また娘息子たちの進学時には保証人になっていただくなど、折に触れお世話になりました。

私も一昨年母を、去年は父を亡くし、かなり気落ちしておりましたが、中住先生はそんな私を励ましてくださいました。父を亡くしてからは中住先生を父のように慕っていたように思います。そんな思いから何ができるのか考えた末に、とにかく毎日お見舞いに行こうと決意するに至りました。ご家族にはご迷惑だったでしょうが、その生き様をしっかり見届けることができました。最後は安らかなお顔で旅立たれたことがなにより救いです。

さて、中住先生は大同学園に対しても多大な貢献をしておられます。まずは大同特殊鋼(株)の歴史調査をされ、同社電気製鋼の先駆けとなったエル式電気炉についても詳しく調べられ、産業遺産としての価値を明確にされ、1988年、アメリカ金属学会(ASM)のヒストリカル・ランドマーク賞(Historical Landmark)に認定されることに多大な貢献をされました。その折に大同工業学校創設者である第4代大同特殊鋼社長下出義雄氏についても貴重な研究資料を遺され、私が現在関わっている「大同高校の歴史と未来」としてまとめる仕事に、「この資料は好きに使っていいよ」と提供してくださいました。



中住健二郎先生の指導で、生徒が大同特殊鋼の社宝、エル式電気炉を調査 (中住先生撮影、1983/07/15)

また、大同高校を改革し、より良くする変革グループ（パルサー軍団と呼ばれておりました）の重鎮として活躍され、私をはじめ、変革グループのメンバーはその後の大同高校を大きく変貌させる中心となりました。その結果は、大同高校の今日の姿を見ていただければお分かりいただけるはずです。微力な私たちがなんとか頑張ってきたのも中住先生が存在が極めて大きかったのです。

中部産業遺産研究会では、副会長、最後は顧問であられました。ご専門の電気に関連して、中部の電気事業の遺産について多くの成果を遺しておられます。2002年度～2004年度、愛知県近代化遺産（建造物等）総合調査の調査員、『愛知県史別編 建造物・史跡』の調査協力員を任せられ、それぞれに論文、調査報告を書かれています。中住先生と共に三菱重工の調査を行い、論文にまとめたことはとても充実した思い出として残っております。

現在、私は還暦を迎え1年生の担任と3つの部活動の顧問に勤んでおります。中住先生の教えを胸に、しっかり65歳の定年まで働き続けたいと思っております。



愛知県史編さん事業における産業遺産の調査、左から2人目が中住健二郎先生（粟代鉱山にて、2001/12/17、石田撮影）

いずれにしても、中住先生には感謝の言葉しか浮かんできません。本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたしますと共に、天界から私たちやご家族、そして大同学園をお見守りくださいますようお願い申し上げ、追悼の言葉とさせていただきます。

シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第35回のご案内 ものづくりとデザイン - 産業近代化とデザインの歩み -

今回は、デザインを切り口として、産業遺産を見て、考える手がかりにしたいと思います。

『デザイン』は、意匠とも言い、「工夫を凝らすこと」さらに「美術、工芸、工業から生み出す品の形や色など様々に工夫すること」です。先人が何を思い、考え、どのようにデザインして来たかを学び、産業遺産の意義をより多面的に感じとりたいと思います。そして、その産業遺産を将来に生かし、活かせる道を歩みたいと考えています。今シンポジウムにて、工業デザインという切り口と、中部地区において発達した近代産業の代表格である自動車や工作機械を例にとって、『デザイン』がはたしてきたことを、参加者みなさんと考えましょう。

主催：中部産業遺産研究会
共催：トヨタ産業技術記念館
後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・
産業考古学会・日本産業技術史学会・
日本機械学会・中部産業連盟・
中部圏社会経済研究所・中部経済連合会・
日本技術士会中部本部

◆日 時：2017（平成29）年2月26日（日）
午後1時～午後4時45分

◆会 場：トヨタ産業技術記念館

◆参加費（講演報告資料集の代金を含む）

○一 般 1,000 円



自動車と工作機械にみるデザインの歩み

*中部産業遺産研究会員500 円

*学生で資料を必要としない場合 無料

○懇親会費 5,000 円 (予定)

※参加費はお申し込み後、出来るだけ事前に振込をお願いします。

※振込先【郵便振替】口座番号：00880-2-83831 口座名称：シンポジウム「日本の技術史をみる眼」
(個人での振込は申込者の名前でお願いします。)

◆定 員：シンポジウム 最大99 名 (会場の定員) 懇親会：30名
(定員になり次第締め切らせていただきます)

◆お申し込み：以下の中部産遺研WEBサイトの「申し込みフォーム」からお申し込みができます。

<http://csih.sakura.ne.jp/nitigi.html>

※郵送でのお申し込みの場合は、①から⑤をご記入の上、下の申込先までお送りください。

①氏名・フリガナ

②区分 (一般・中部産業遺産研究会員・学生)

③連絡先 (電話・メールアドレス)

④所属 (団体名・勤務先など 学生の場合は学校名と学年)

⑤懇親会 (参加する・参加しない)

◎郵送での申込先：〒470-0213 愛知県みよし市打越町九蔵釜93 加藤 真司 宛

【プログラム】

12:00 受付開始 13:00 開会

■基調講演「デザイン視点でのモノづくりと社会的価値の変遷」

講師 布垣 直昭 (トヨタ博物館館長 トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部 部長)

■講演「マザーマシンにみるデザイン変遷」

講師 梅本 良作 (会員、名城大学 理工学部 技術員)

15:30 ～ 質疑応答 意見交換

16:45 閉会

17:05 ～ 18:45 懇親会 (事前申込者のみ) 会場：レストラン「ブリックエイジ」(館内)

第144回定例研究会案内

日時：2017年1月29日(日) 13:00～17:00

会場：豊田市産業とくらし発見館

豊田市喜多町4-45 TEL 0565-33-0301

名鉄豊田市駅東へ徒歩5分

プログラム：

第1部 見学会

豊田市産業とくらし発見館企画展

「枝下用水130年史 ～偉大なる哉疏水業～」見学

第2部 勉強会

[144-11-01]「枝下用水130年の企画展の想い」／小西恭子

[144-11-02]「航空機用ディーゼルエンジン史とク

リーンディーゼル車への発展」／杉本漢三

[144-11-03]「鍋屋上野浄水場、緩速濾過池の改修工事について」／山田 貢

[144-11-04]「松本市・臥雲辰致 ガラ紡 展示会について」／天野武弘

[144-11-04]「ドイツの産業博物館を訪ねて MAN Museum & Industriemuseum Lauf」／石田正治

第145回定例研究会・見学会案内

「新美南吉の下宿、大正後期～昭和初期の長屋門を構える家屋、南吉館、旧安城高等女学校、南吉文学碑、鑄鉄製の吸い上げポンプ」見学会

■日時：平成29年3月26日(日) 午後13時45分より
(荒天中止)

■集合場所：名鉄西尾線「北安城」駅 13：40

（新安城駅で、名鉄名古屋本線から西尾線の普通電車で乗換えが必要）

※名鉄「西尾線」西尾行き

新安城(13時38分発)～北安城(13時40分着)

■行程： 13：40 名鉄「北安城」集合

13：45 北安城駅～徒歩(15分)

新美南吉の下宿に到着

14：00～14：30 新美南吉の下宿を見学

14：30～15：00 新田地区を見学

安城市新田町出郷37番地付近では、大正後期～昭和初期の長屋門を構える家屋が見られる。

タイミングが良ければ、新美南吉の下宿で15：00の時報を聞く。

15：05 新田町～徒歩(20分)

名鉄「西尾線」高架橋 ならびに「北明治稲荷社」を見学しながらJR安城駅前付近に到着。

15：30～16：00 新美南吉を前面に押し出す安城市のまちづくり見学、南吉館（まちづくり機能）、

新美先生と生徒の像、シャッター絵画

16：00～徒歩(10分) 旧安城高等女学校に到着。

16：10～16：40 元の安城高等女学校は現在、安城市立桜町小学校、兵十とごんの碑がある。

16：45～17：00 安城公園の南端にある南吉文学碑（安城七夕神社の北側）、安城公園の西側が明治川神社（都築弥厚たちを祀る）から東側に分かれた「明治用水」支流、半場川・油ヶ淵から新川または高浜川より衣浦湾に注ぐ。下記「花ノ木橋」も同支流（枝川・東井筋・矢作川）に架かる。

17：00～17：20 花ノ木町6番地の1号付近「鑄鉄製の吸い上げポンプ」を見学。

※見学会終了後に懇親会を予定。

■広報幹事より

電子メールアドレスをお持ちの方で、電子メール版ニュースレターを受信されていない方は、広報幹事（hidekih@wine.plala.or.jp）まで必ずご連絡ください。

■編集後記、原稿募集

■編集後記

今号の編集をしているときに、研究会顧問の中住健二郎先生が1月7日の未明にご逝去されたと大同高校の山元先生から連絡がありました。中住先生が入院されているとは、訊いておりましたが、その頃は私も体調を崩して入院していましたのでお見舞いに行けず仕舞いでした。お通夜での先生の朗らかなお顔の遺影に接し、もうあの元気なお声が聞けないのかと思うと、目頭が熱くなりました。それで、この会報の発行日を少し延ばし、山元先生に中住先生の追悼文を書いていただくことになりました。（石田）

■産業遺産に関する諸情報、短信、文献紹介、ご意見などお気軽にご投稿下さい。投稿は郵送または電子メールでお送り下さい。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けて下さい。

原稿送付先：石田正治 ishida96@tcp-ip.or.jp

第66号の原稿締切日：2017/03/20

■「中部産業遺産研究会会報」発行予定

第66号（2017/04/15） 第67号（2017/07/15）

第68号（2017/10/15） 第69号（2018/01/15）



中部産遺研会報 第65号

ISSN 2189-5619

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.65

発行日：2017年1月20日

発行人：永田 宏

編集委員：石田正治・橋本英樹・大橋公雄・浅野伸一・野口英一朗

中部産業遺産研究会事務局：

〒458-0804 名古屋市緑区亀が洞三丁目1740 大橋公雄 気付

中部産業遺産研究会のホームページ <http://csih.sakura.ne.jp/index.html>

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2017, The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.